

## 【普及の現場から】

# 「津山地域の稲ホールクロープ サイレージ生産流通推進の取り組み」

## 津山農業普及指導センター

### 1 はじめに

津山地域では平成13年から耕畜連携による稲ホールクロープサイレージ(WCS)の作付け利用が進み、平成18年度は生産農家は30戸以上で栽培面積は15haを超えました。これまでは、主に津山市綾部地区と久米地区で酪農家が周囲の耕種農家に栽培を進め、徐々に面積拡大してきましたが、生産調整の厳しい中、全国的に栽培面積が増えていることもあり、新たに下横野、大崎地区、久米南町が加わりました。

そこで、生産農家と利用農家の組織作りを進めることで耕畜連携を強化するとともに、生産利用農家と関係機関が一体となって収量品質の向上と低コスト省力技術確立を目指し栽培実証等を行ないました。

### 2 津山地域飼料稲生産利用研究会の設立と活動

#### (1) 設立経緯

設立準備として、各地区生産農家の代表者と利用者の酪農家を参集し、会の目的や機能について説明し設立を提案しました。これまで栽培管理や流通体制など手探りで進められていましたが、組織化により情報提供や作業の効率化を進めようと会を設立する運びとなり、津山地域飼料稲生産利用研究会(高山勝好会長、55名、事務局津山農業普及指導センター)を7月に発足しました。

#### (2) 今年度の活動

9月には勝英地域と合同で研修会を開催し、新型収穫期の実演とそれぞれの地域での稲WCS生産流通推進についての報告を行いました。

また、1月に鳥取県への視察研修を行い、鳥取県畜産農協の稲WCSを核とした地域振興の取り組みについて鎌谷組合長の講演を聞き、組織運営や耕畜連携の手法、稲WCS振興の基本概念など学習しました。

今後は2月にこよみの配布と栽培講習会、次年度作付け計画についての検討を行う予定です。

### 3 低コスト技術実証

各地の生産農家と協力して低コスト省力技術として、鉄コーティング湛水直播栽培と簡易曝気処理牛尿施用栽培実証に取り組みました。

#### (1) 鉄コーティング湛水直播栽培

綾部西、下横野、久米の3地区で実施しましたが、綾部西では汎用田植機による条播、他の2地区では背負い式動力散布機による散播をしました。品種は専用品種のホシアオバで、普及指導センターで生育等の調査を行いました。結果、収量は雑草の発生が多かった綾部西が8.6ロールで、その他は10ロール以上でした(津山地域平均収量9ロール)。

この結果を踏まえ、研究会では鉄コーティング湛水直播の栽培ごよみを作成し、今後栽培講習会等も開催し、低コスト省力技術の普及を図ります。

#### (2) 簡易曝気処理牛尿施用栽培実証

津山地域では一昨年から津山市酪農組合の酪農家で簡易曝気処理された牛尿の飼料稲への施用実証を行ってきました。今年度は綾部東地区の移植栽培(ホシアオバ)への施用を行い、適正施用量の確認と臭気など周辺環境への影響についての調査を県総合畜産セン

ターの協力を得て行いました。尿の施用は1回量 0.5t/10a と 1t/10a を田植え後3週間おきに3回行いました。

収量は 0.5t/10a の 10ロールに対し、1t/10a は 12ロールで高収量が得られました。

また、散布前後の臭気についてはアンモニア検知管を用いて最大 1 ppm とほんの少し臭いを感じる程度でした。周辺水路等の大腸菌や窒素、リン酸などの水質調査や栽培前後の土壌分析結果では、尿の散布による影響はありませんでした。また、出来上がったサイレージの成分分析結果では、硝酸態窒素やカリの濃度は低く、尿施用による影響はないことを確認しました。曝気処理尿の利用は、化成肥料のコスト低減だけでなく散布作業が非常に楽なので、耕種農家から取り組み希望も上がっています。

実証の詳しいデータについてのお問い合わせは津山普及指導センターまでお願いします。

#### 4 終わりに～今後の課題

##### (1) 基本栽培管理技術の徹底

今年度は天候に恵まれ、地域の平均反収が9ロールと良好でしたが、栽培管理によりバラツキが大きく(2個～14個)、まだまだ基本的な栽培管理技術の徹底が必要と考えられます。また、牛の餌とはいえ最終的には人の食品という認識を深め、安全で品質の良いものを作るよう栽培講習会等で指導する必要があります。

##### (2) 低コスト省力栽培技術の実証と普及

今年度は鉄コーティング湛水直播の栽培実証を行いましたが、水管理や除草体系など詳細な管理は全国で試験中であり未確立です。地域での栽培管理を確立し安定収量を得るため引き続き栽培実証を行います。また、より低コストで省力的な栽培方法の確立を目指し、鉄コーティング以外の直播技術の実証も検討しています。

##### (3) 地域内広域運搬流通体制の整備

現在、ほ場から牧場までの運搬は酪農家が行い、ロールクラブやトラックなど運搬用機械は酪農家で貸し借りしています。今後栽培が広域化し利用農家も増えると個々の対応が困難になると考えられます。また、ロールの

取引きについても農家同士相対で行っており、拡大に伴い限界があると考えられます。

今後は畜産側だけでなく、耕種側との連携・役割分担をますます深め、円滑な流通体制整備の取り組みが重要であり、そのため関係機関・団体との連携支援に普及センターとしても努めて行きたいと思えます。



〈研究会設立総会〉



〈牛尿施用実証風景〉



〈勝英合同研修～収穫機実演〉